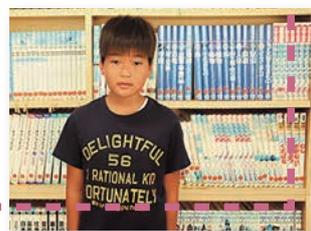


特集 国際交流で輝く未来



諸外国と日本との異文化交流を図ることを目的として、フランスのグランデコールの学生9人（20～21歳）が7月9日から30日にかけて石岡市を訪問しました。芸術海外交流会茨城支部によるフランス人留学生の受け入れは、コロナ禍を経て、4年ぶりに開催され、期間中は市内のホストファミリーの家に滞在し、フレンドシップいしおかによる日本語レッスンや石岡市日本舞踊研究会による日本舞踊の指導などのほか、小中学校や高等学校、地域の国際交流団体との交流が行われました。

この特集では、各学校の生徒や地域の方々との交流の様子を伝えるとともに、実際に交流を体験した方々へのインタビューを通してお聞きしたことをご紹介します。



塩野禅さん
(杉並小5年生)

集会で、留学生がフランス国歌を歌ってくれたことが深く印象に残っています。交流中は、フランス語の簡単な挨拶を教えてもらい、単語をもっと知りたいと思いました。

授業では、留学生と一緒に「おちゃらかはい」などの手遊びを行いました。お話をする中で、フランスの食べ物を紹介してもらい、外国の食べ物に興味を持ちました。



塩野結さん
(杉並小5年生)

石岡二高では、関東三大祭りの一つとも言われる「石岡のおまつり（常陸國總社宮例大祭）」の体験として、い組囃子によるお囃子が披露されました。おまつりには参加できませんでしたが、ひょっとこやきつねのお面を実際につけてみたり、和太鼓を叩いてみたりと、参加者の気分を味わうことができる体験となりました。

続いて、石岡三曲協会に所属する会員の皆さまの指導のもと、琴や尺八を演奏する体験を行いました。日本の伝統的な楽器を学ぶことができました。

地域コミュニティ



石岡幼稚園にて、地域コミュニティとの交流会が行われました。参加者は飲み物や食べ物を自由に楽しみながら、フランス人留学生と交流を行いました。

この日は「音楽で語ろう会」ということで、ギターのリズムに合わせて、日本の童謡や歌謡曲のほか、世界共通で盛り上がることのできる「ダンシングクイーン」などの洋楽が披露されました。歌の披露を受け、留学生2人もフランスの歌を即興で披露し、音楽は世界共通で盛り上がることを改めて実感しました。

恋瀬小学校

恋瀬小では5・6年生を中心に交流活動が行われました。日本の伝統文化について、タブレットパソコンを使い、留学生に向けて紹介を行ったり、5年生はお箸体験、6年生は折り紙や福笑いなどの日本の遊びについて留学生と一緒に体験活動を行いました。

児童からは「折り紙で、ツルの折り方を教えた時に、留学生が作ったツルがとてもきれいで驚きました。この交流会をきっかけに、フランスの文化について知ることができてとても楽しかったです」との感想を聞くことができました。



杉並小学校



杉並小では、まず最初に体育館にて、高学年生による歓迎の集会被開催され、和太鼓をたたきながら歌を歌ったり、ソーラン節を披露し、日本の伝統的な文化を紹介しました。質疑応答の時間では、好きな食べ物やスポーツ、おすすめの場所などの情報交換を行い、共通で人気のものがあるとお互いに大きなリアクションを示し、話が盛り上がりました。

次に、国際交流教室では、琴の演奏と昔ながらの手遊び体験を行いました。初めての体験にとまどいながらも、児童の温かい協力のおかげで楽しく文化体験を行うことができました。



イザラ・マヌエルさん
(石岡二高3年生)

幼い頃ペルーに住んでいたため、外国の文化に興味があり、留学生の案内役として交流会に参加しました。交流を通して、お互いが勉強していること、熱中していることなど様々な会話から、異なる価値観や考え方を知ることができました。普段の高校生活の中では、こういった機会はあまりないため、大変貴重な経験になりました。この体験がきっかけとなり、将来自分も留学をしたいと思うようになりました。

石岡第二高等学校

